

2018 (平成30年) 2月1日発行

発行者：大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部：〒579-8012 大阪府東大阪市上石切町1-3-23 tel&amp;fax 072-943-1865 (編集責任者：広報部田隅)

## 根掛かり釣り具問題が表面化へ？

平成29年11月2日、滋賀県大津市で開かれた各府県水産担当官近畿瀬戸内海ブロック会議のあと開かれた意見交換会で話題になったことは、根掛かり疑似餌の問題でした。タコジグなどタコ釣りの疑似餌、アオリイカ、コウイカ釣りの疑似餌、タチウオのテンヤ、それにサビキ仕掛けと撒き餌カゴなどが定置網、タテアミなどに引っかかり、それが原因で漁業作業員が怪我をするというケースが激増しているというのです。

なかでもタコは第一種漁業権の魚種に指定されています。

現在のところ、岸边や防波堤などからタコを釣ることは古来の漁村地域住民の慣例的な

“あそび”として漁業権の侵害としてとがめだてしない、という認識で受忍の範囲内事項として扱われてきました。いわば黙認されてきたわけです。

しかしこうも怪我の数が増えると、中には態度を硬化させて釣り禁止にする漁協が出てくる可能性があり、それを未然に防ぐ対策はないかという意見が幾つかの県から出されていました。

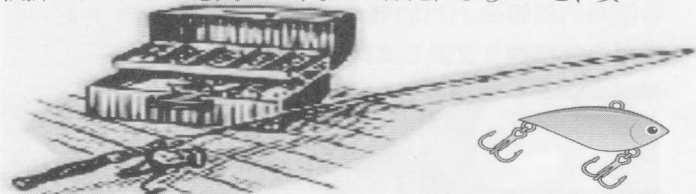
イカエギについても同じような意見が出ていましたが、アオリイカの場合は漁業権魚種に該当するわけではないので当面強権が発動される可能性はないと思われます。

しかし第一種共同漁業権侵害と、漁港の防波堤の管理を組み合わせた形で漁港波止に「立ち入り禁止」問題が生じる可能性はあるわけです。

試みに私たちの身近にある泉南の岬ゴルフ場裏などにシケあとに釣行すると、特にアオリイカ、タチウオ、ハマチ、サゴシとルアー釣り対象魚が大阪湾に多く回遊した昨年など、波で根掛かりから外れて打ち上げられたルアー、エギなどの数の想像外の多さに驚くほかありません。

若い釣り人たちに海のルアー釣りが猛烈な勢いで広がっている事実と考えあわせて、この現実を観察すると愕然とせざるを得ません。

根掛かりでルアーを失いたくないのはだれしものこと、要



大阪府釣りインストラクター連絡機構代表

来田 仁成



は根掛かりしたルアーを回収できるだけの強度を持ったラインを用意することでルアーの亡失の半数は防ぐことができるのではないかと思います。私たち“公認釣りインストラクター”の役割は漁業関連法規の遵守と知識の普及それに釣りの未来に向けての指導及び、それに関するボランティア活動の実施が二本の大きな柱になっています。

JOFI大阪の皆さまには、この柱の后者の部分で多大のご協力を頂いており、また多忙をきわめておられることも承知しており、感謝するばかりです。

しかし、もう一方の柱である漁業法規の普及のかたわら釣りの自由を守るための調整という部分にも、改めて関心を注いで頂きたいようお願い申し上げる次第です。

平成30年は、大阪で“釣りインストラクター”の資格講習と試験が実施されます。私たちの志を継ぐ若手釣りインストラクター養成のため、機会あるごとに周辺の若い世代のお知り合いに、この制度の存在意義と参加への試みを周知頂くようお願い申し上げます。



### 公認釣りインストラクター (釣り指導員) とは

釣り人に、健全なレクリエーションとして、あるいはエコロジカルスポーツとしての釣りと、釣り場をとりまく水産資源の保護、自然環境保全の知識を普及させ、釣り技術と合わせ、釣り場での安全確保、釣り場でのルールマナーなどの指導をおこなうことを目的とした活動のための公認資格です。

釣りインストラクターの資格認定は、  
一般社団法人 全日本釣り団体協議会が行います  
<http://www.zenturi-jofi.or.jp/>。

大阪府釣りインストラクター連絡機構  
(JOFI大阪)

<http://jofi-osaka.com>  
メール: [info@jofi-osaka.com](mailto:info@jofi-osaka.com)

## 報告 1

# 泉南市秋の環境美化運動 男里川ハゼ釣り教室 (H29-9/3)

昨年は台風接近で中止となった、泉南市男里川河口環境美化運動河口ハゼ釣り教室が、9月3日(日)開催され、私達インストラクターも早朝の薄暗い中、竿とリールのセットなど事前準備。今年は子供達の参加が昨年より少なく36名、保護者30名・スタッフ12名・JOFIインストラクター15名を含め総勢93名で開催。

主催者側から当日のプログラムや「河口の保護生物を傷めない事」などの説明後、例年同様海岸のゴミ清掃から開始。8時開会、主催者の挨拶の後、JOFI大阪中島・石川会員が釣り教室。内容は「安全な釣りをするためのルールやマナー」・「危険な魚」・「河口での釣り」・「ライフジャケットの重要性」などについて15分程度講義。その後、ライフジャケットの着用を参加者全員に実践してもらい、一人一人の着用状況を確認後班分け、セットされた釣り竿と虫エサを持ってハゼ釣り場所へ移動。



釣り始めには虫エサに噛まれ大声を出す子や触ることができない子がいる中で、釣りを進めていくうちに徐々に慣れ、虫エサに触れるようになり、又、掛かった魚を一生懸命タオルで包み鉤を外せるようになりました。釣り開始後、直ぐにマハゼが検寸受付へ持ち込まれ、続いて魚拓の依頼。魚拓作成は主催者側からの要望で2部作成し、1部は展示用でもう1部は釣り人が記念品として持ち帰るとの事。3人体制で臨みましたが、予想以上に時間が必要となり一人1部に限定。

釣果の結果は、マハゼの部では無笹俊一君が13.0㌫、又野玲さんが12.6㌫と12.3㌫で、キチヌの部は、ヤマノヨウヘイ君12.7㌫、マキタリコさんが12.5㌫でした。コトヒキはオオタニハルイチ君7.5㌫、シンドウカズト君が7.5㌫でした、この他にもフグなどが釣れ皆で楽しく釣りを楽しみました。最後にテント前で全員記念写真を撮り大会は事故もなく終了。(事業部 高木)



## 報告 2

# 南港魚釣り園護岸で楽しい魚拓教室と安全学習会を開催 (H29-9/10)

小さなイワシからタコまで何でも魚拓にし、子供との楽しい一日の記念となるよう南港魚釣り園護岸で、魚拓教室と安全学習会を9月10日(日)に開催しました、当日は280名からの来園者があり大変な賑わいでした。

今回の開催は、釣り公園管理会社から安全指導と魚拓作成の要請があり協力実施しました。いつもは魚拓教室を午前中で終了していますが、依頼者の要望で15時まで受け付けを行ったので、保護者と子供併せて30名の参加があり、魚拓と一緒に作成指導するインストラクターは大変でし



を午前中で終了していますが、依頼者の要望で15時まで受け付けを行ったので、保護者と子供併せて30名の参加があり、魚拓と一緒に作成指導するインストラクターは大変でし

たが、出来上がると保護者の方に良い記念になったと喜んでいただきました。また、併せて実施した安全指導では保護者と、安全パンフレットを見ながらライフジャケットの重要性や溺れた時の緊急連絡番号の「118」等を説明しました。その他、子供達と釣れた魚を図鑑と比べ魚の特徴や生態の説明や、近海の波止で釣れる危険な魚等を話し、これからの釣りをより楽しくするための知識を習得してもらいました。

(報告 辻)



## 報告 3

# 平成29年度 寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り大会 (H29-9/23)

親子のコミュニケーションをテーマとして9月23日(土)昨年と同様、大阪南港魚釣り園護岸で実施。朝10時頃に参加者が到着、釣りの安全とライフジャケットの必要性を説明後、全員がライフジャケットを着用、前年度参加された子供が多く、初めて参加された人達の着用を手伝ったりして、スムーズに着用。11時過ぎからサビキ仕掛けを参加者と共に竿にセットし、釣りを開始しましたが、何も釣れない状態が続いたので

「昼からは釣れる」と参加者に言いながら、全員で昼食をとってもらい時間を過ごしました。13時30分頃からぼちぼち釣れ始め、アジやイワシが釣れる度に参加者の歓声が上がり釣りを楽しまれていました。



特に大きなボラが掛かった時は、全員大騒ぎ。16時45分まで釣りを全員堪能し、その後清掃と後片付け、記念写真を撮り、笑顔で帰路のバスに向かいました。閉会式では保護者や子供達から楽しかったので来年も参加したい

との要望や、お礼の言葉もありましたが、無事に怪我等もなく終了したことが何よりでした。

(報告 川嶋)



## 報告 4

### 平成29年度日本ボーイスカウト大阪連盟なみはや地区釣章講習会の開催(H29-9/24)

#### ※※ 釣りの安全確保と基本的な技術を得るため ※※

今年の釣り章講習会では「釣りの安全確保と基本的な技術を得るため」を目的に、9月24日(日)に、大阪府泉南郡岬町淡輪、岬町立淡輪会館で開催されました。

参加された30名の日本ボーイスカウト大阪連盟のスカウトを対象に9時から受付、9時30分から座学の授業を開始しました。



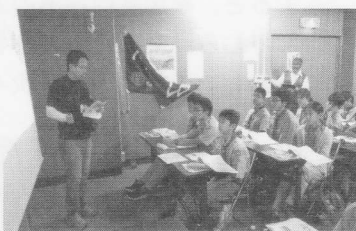
全員が終始真剣な受講態度で受講されていました。

その受講態度も日本ボーイスカウト大阪連盟から考査員の認定をされたインストラクターが「釣りを理解し

楽しんでいるか」「座学で積極的に行動しているか」

「講師の話が聞けていたか」「回覧した用具等に興味を持っていたか」を採点、実習では「八の字結びは出来たか」「糸と糸の結び(電車結び)は出来たか」「針と糸を結ぶ(外掛け結び)ことは出来たか」「サルカンと糸の結びは出来たか」を確認し、受講後に行われる理解度テストに加味して採点します。その理解度テストを全員が合格点を上回る優秀な成績で通過されたので、淡輪漁港へ移動し

15時から実釣を行いました。



実釣の前に、安全の基本である「ライフジャケット」を全員着用し、清掃作業を行い続いて実釣を開始します。

しかし、机上で理解していても実際に生きた魚と

初めて対面するスカウトもあり、魚のつかみ方から針のはずし方など指導することは多くありました。

実釣でも「釣りマナーやルールと安全対策が実践できているか」「釣れた魚の名前を確認できるか」「実釣後の釣り場清掃は積極的に実施したか」「食べ方の理解度は出来ているか」を考査員であるインストラクターが採点し、その結果を日本ボーイスカウト大阪連盟が精査認定します。JOFI大阪「釣り検定初級認定証」は、理解度テストの合格者に、講評後手渡しました。

私達も楽しくチョット大変な一日が無事に終了し、協力できたことに喜びを感じました。

(報告 石川)



## 報告 5

### 第2回JOFI大阪ファミリー波止釣り研修会(H29-11/12)

#### 魚に見放された研修会で親睦がより深まる

開催日の11月12日(日)は「2週連続の台風や土曜日の強風で大和川から真水が流れ込んでいたようです」また「私達が研修会を行った宇部波止は前日釣果が良くても翌日成果を望めない等ムラの多い釣り場だそうです。研修会前日釣果の無かったので、当日良いと確信し渡してもらったのですが、参加された9名に釣果を上げてもらえず残念な思いでした」と開催委員長中島誠一氏から閉会式で挨拶があったように、大半の参加者はアタリもなく波止で早朝からの半日を過ごしてしまいました。それだけ魚の個体数が少ない状況でしたが、ルアーマンの室井会員は太刀魚1匹とかまぼこ材料(エソ2匹)で3匹

と、このような状況の中でも竿を曲げ、「自然を読む推察力は流石」と開催委員長も感心。他には川村長老が20cmのセイゴ一匹でした。

当日宇部波止先端の釣り人がセイゴ40cm1匹・ハネ46cm2匹や太刀魚の釣果があったとのことでした。

今回の開催に甚大な配慮を頂いた夢・Fの倉橋船長に感謝の念を禁じえません。有難うございました。

(報告 事務局)





## 第17回バリアーフリー釣り大会に参加協力(H29-10/7)

(釣りで楽しい一日を過ごそう)

夏の灼熱の暑さから解放された、10月7日(土)淡輪ヨットハーバーで、障がいを持つ人達のバリアーフリー釣り大会(主催: NPO法人み・らいず)に、安全に魚釣りを楽しんでもいただくための支援と、釣り指導にインストラクター9名で参加協力しました。会場の淡輪ヨットハーバーは、日常は魚釣り禁止ですが、ご厚意でこの催しのためヨットの出入りの少ない面を開放していただいています。今年の参加者は、障がい者の方が19名で昨年より倍近く多くなり嬉しいことです。ボランティアとヘルパーやインストラクター等を含めると51名でした。

釣り方はサビキ釣りですが、竿は短めの扱いやすい物、リールも軽いリールを使用、また、フィッシングエイト(株)様から提供していただいたサビキ仕掛けは、一般品より針の本数が少ないので、初心者の方の釣り指導や釣り大会などで安全に釣りが楽しめるよう配慮出来ました。今年はことのほか「アジ」「サバ」「ウルメイワシ」等入れ食い状態が続き、参加された人達は、釣りの楽し

さを充分に楽しんでおられ笑顔の絶え間がありません。

例年のように釣れた魚をカラ揚げにして、全員で昼食時にいただきました。

魚を集める人、捌く人、揚げる人、そして食べる人、その魚の美味かったこと、揚げても揚げてもすぐなくなり、皆大忙しで大喜びでした。

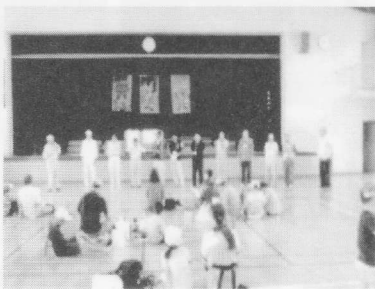
また、魚を釣った人とスタッフが力を合わせ魚拓作成。忙しい一日でしたが、このバリアーフリー釣り大会をとおして、私達インストラクターも原点に返って、本当の釣りの楽しさを体感し魅力によりひかれました。

(事務局 物部)



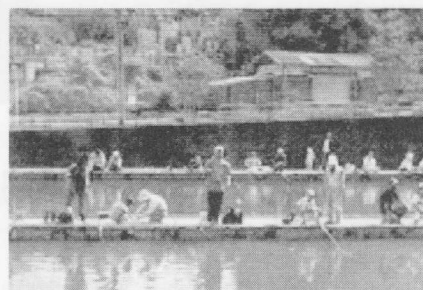
## 第22回やわたフィッシングスクール開催(H29-9/10)

晴天の9月10日(日)に行われた「やわたフィッシングスクール」は、12組31名の応募があり、上は83歳、下は5歳という幅広い世代が集まり、鯉釣りを楽しめました。例年のとおり午前中に釣りに関する講義を行い、参加者はさくら小学校体育館で「釣りの基本」と「マナーやルール」「釣りの仕掛けとエサ作り」や「釣り座」などについて熱心に学んでおられました。午後からは、近くの志水農家組合釣り池センターに移動して鯉釣りに挑戦です。



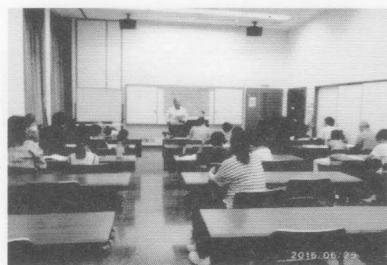
釣りが初めての参加者も多くおられ、小さな鉤にエサをうまく付ける方法や鯉の特性とアワセの時などを指導すると、参加者は指導のとおりできるよう真剣に取り組んでおられました。釣りを始めるとすぐに、40センチから50センチ前後の鯉が次々と釣れ、参加者は歓声を上げるなどし、釣りの楽しさを体感され無事教室は終了となりました。

(報告 太良木)



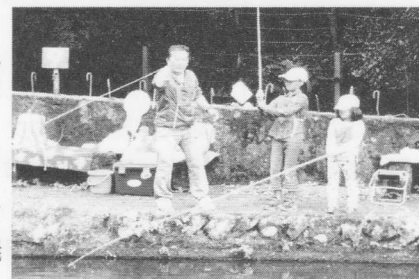
## 第43・44回 かしわらフィッシングスクール

「自分のルアーを作り」  
「家族ぐるみでマス釣り体験」



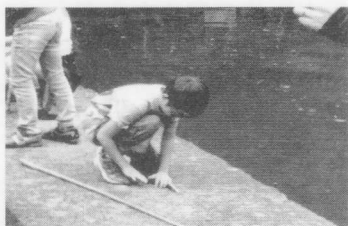
この教室は、柏原市教育委員会の主催で「青少年つり入門講座」として1年に2回、柏原市役所別館3階のフローラルセンターで開催され、今年で43・44回と

なりました。今年も前期と後期それぞれ3日間の講義を行い「釣りの道具を知ろう」から始まり「仕掛けやえさの基本」そして、自分だけの「手作りルアー」に挑戦し、最後はキャストィグの実習を市役所横の河原で体験してもらいました。6日間で延べ小学生81名と中学生が6名受講され、毎回真剣に取り組んでおられました。



9月24日(日)の実技講習会は、千早川マス釣り場で実施。小学生31名と家族など含めて19名の50名が参加されました。当日は、天候も良くマスが皆に釣れて多くの笑顔が見られ、また持参された弁当と手作りの「豚汁」も好評で、家族ぐるみで楽しい一日を過ごしておられました。実釣を含め7日間の釣り教室でしたが、子供達が釣りに興味を持ってくれたこと、楽しんでくれたこと、そして無事に釣り教室が終了出来たことに感謝しています。

(報告 中野)



釣りをするときはそれぞれの自己責任で行動し  
釣り場では必ずライフジャケットを着用しましょう  
釣りのマナーとルールを厳守しましょう  
ゴミは必ず持ち帰りましょう  
水辺の生き物や自然環境への  
思いやりの心を大切にしましょう



## 報告 9

# H29年度南港魚釣り園護岸初心者支援

## 大阪南港魚釣り園護岸で 初心者の方が楽しい釣りを体感

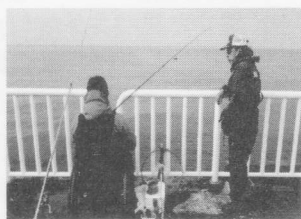


夏休みは人が多い

平成29年度も初心者の方に釣りを楽しんでいただくため、毎日曜日(土曜日に変更もあります)の午前8時から12時まで、投げ釣りの危険性やライフジャケットの重要性と竿の置き方、それぞれ仕掛けセット方法など

を説明しています。

また、車椅子を使用される方などが来園されていますので、トラブルを事前に回避して、安全で楽しい釣りができるよう基本的なルールとマナーの説明も行っています。



釣りは楽しい

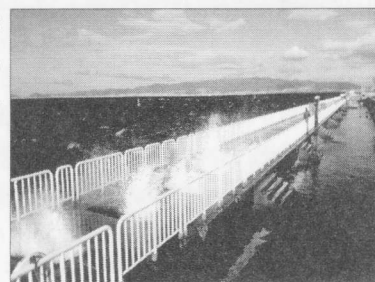
釣りに興味のある方やファミリーで釣りを行ってみたいが、仕掛けなどのセット方法が解らないのでとちゅうちょされている皆様、私達インストラクターがお手伝いしますので、お越しになって話しかけてください。



さばかれるセイゴ

目印は、ブルーのブルゾンを着て背中に「JOFI OSAKA」と表示していますが、長話し好きの人が多くので、早く釣りがしたいのと思う場合はその旨ハッキリとってください。釣りの話が出来る人を探しますので・・・釣りの楽しさを味わってみてください。魚を通して自然の怖さと保護の大切さや命の大切さを子供に教えてください。

(報告 事務局)



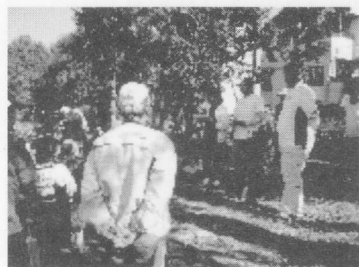
晴れていてもこの波

## 報告 10

# 初心者のためのヘラブナ釣り教室(H29-11/3)

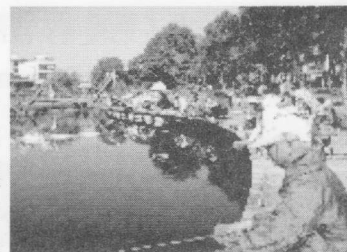
## やってみようヘラブナ釣り

朝チョット寒い11月3日の祭日(文化の日)に開催された「初心者のためのヘラブナ釣り教室」にJOFIインストラクター3名で参加。この釣り教室は、FIE推進委員会主催で「釣りは人間形成に大きく寄与する」との考えで、毎年2回大阪近郊で開催されています。今回は、守口市にある世木公園市民の釣り場で9時30分から受付、40名



を超える参加者で開会式が行われました。午前中は、ヘラブナ釣りのプロによる講義が簡単に行われ、午後からは実釣へ、朝肌寒かったが10時頃からは、太陽の光が暑く感

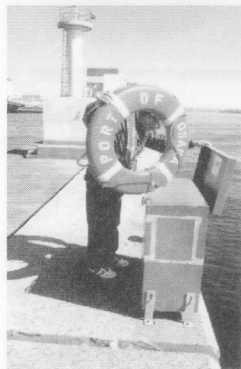
じられるようになりました。しかし、私達3名にはアタリも無く、2時間が経過。私達だけに寒い風が吹いている気分になっていましたが、周りの参加者はヘラブナを釣り上げながら、釣りの楽しさを体感されていました。その日の結果は、3名ともに最後までヘラブナは無反応で、その日を過ごすことになってしまいました。指導していただいた方に聞くと、最近新しいヘラブナを放流したとのことで、なかなか餌を食わないとのことでしたが周りが釣れているので・・・私達が釣り教室を開催している時に、釣れない人の気持ちが良く解かる一日でした。しかし、自然の多い公園で一日を過ごしたことに満足しながら帰路につきました (報告 田隅)



# 釣り場調査巡回の一年

・安全柵のない釣り場で走り回る子供の保護者へ注意喚起・

平成29年も会員による釣り場調査を「常吉大橋西詰」と「かもめ大橋付近」で、1月4日から12月24日まで延べ32回実施しました。その他、水質調査も20回行いました。毎年のことながら、ライフジャケットの着用が非常に少なく、注意喚起はするものの改善の兆しはありません。小アジやイワシの釣れる夏休みの日曜日ともなると、ファミリーの釣り人が多くなり、遊びに夢中になる子供への着用が望まれます。釣り場に設置されている救命ボックスの安全用品の盗難は前年より少なくなってきました。



巡回救命箱点検中

その他、ゴミの問題も解決はされていません、特に釣り人のゴミ放置が多く見られます。

今年は、台風の接近もあり漂着ゴミが大量に波止で見られました。最近の傾向として、アジングや今年大阪湾の波止からドラゴン級も釣れた太刀魚釣りで、チョイ投げをする人も多く日曜日には危険が伴うので注意が必要と実感しました。

今年最後の釣り場巡回12月24日には、安全周知の看板がはずされ放置されているのを見ると残念でなりません。

来年は、この釣り場のゴミが少なくなりライフジャケットの着用が多くなるようにと願います。

(報告 物部)



捨てられた小魚



外された安全周知看板

## 私の釣り今昔

昨年2017年は年末に釣り具をメインに手入れをしようと思ったものの、いざ竿をやりだすとなかなか進みません。特に自分が中学生時代に作った2間の黒竹の竿は、淀川河口で20センチ超えるハゼを釣り、刺身で食べたのは美味しかったとか!! マブナ・モロコ等の魚は母親が腑とうろこを取り素焼きにして軒先に干し、大豆と昆布と一緒に番茶でじっくり煮、最後に砂糖と醤油で味付けした「じゃこ豆」を正月三が日食べたことを思い出す。

夏休みには早朝4時頃に起き淀川へ、川原でヨシやマコモの葉の先端に作ったクモの巣の中にいるクモを捕まえオイカワを一匹釣る、その一匹を釣り座の横に叩きつけ、しばらく置くと銀バエがたかってくる、ハエを手でキャッチしそれをエサとして20~30匹程度釣り帰り、その晩は天ぷらで頂く、もっぱら私の釣りはおかず釣りでした。フィッシュイーターの私はまだまだ! 父親が9m程のボラの掛け竿で1~2月のシーズンには、ボラを掛け、他のシーズンにはハネ、チヌ他根魚等を釣り、サシミ・アライ塩焼き、煮付けと大漁の時等は連日魚のオンパレード、昨年1月のネットラジオでお話しましたが、海、川、池、湖で釣った魚種は110以上食べた魚は70種を超えます。食べた魚の話に終了しましたが、又、機会がありましたら一番思い入れの有る、使わないのに大事にしている竿の話もさせて頂きたいと思います。(南大阪支部 辻 哲男)



・ご寄付がありました

10月 高木 文博 様 有難うございました



<http://jofi-osaka.com>

第22回JOFI大阪定期総会のご案内

日 時 平成30年3月25日(日曜日)

13時30分~15時30分

場 所 ヒューマンアカデミー

大阪心斎橋校

大阪市中央区南船場4-3-2

あれ?不審船?

近づかず、  
すぐ通報を。

北朝鮮からと思われる不審な船や不審人物が  
発見されています。

漂着している船や人は110番、海の上なら118番へ。

警察庁・海上保安庁